

氏名	尾 関 安 英		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 6 6 1 号		
学位授与の日付	昭和 4 9 年 1 2 月 3 1 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	新型鼻咽腔鏡による耳管・鼓室造影法一特に先天性外耳道閉鎖症の聴力改善手術への寄与一		
論文審査委員	教授 山本道夫	教授 大内 弘	教授 西田 勇

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

先天性外耳道閉鎖症の聴力改善手術を行なうに際しては、鼓室の位置と発育程度、および耳管通気性の有無を知ることは手術適応の決定にきわめて重要である。しかし従来これらを確認できる適切な方法は乏しく、手術に夥しい時間と労力を要することが稀でなかったため、著者は鼻咽腔内視鏡に外径約 1.3 mm のポリエチレン・チューブを通過させる側管を付設し、その先端部にアームをつけて遠隔操作によりポリエチレン・チューブの送り出し角度を調節できる器具を創案し、これによる耳管・鼓室造影法を開発し、1970年(昭45)以来23耳の先天性外耳道閉鎖症に用いて、その手術に対する有用性を検討した。

さらにザルピングスコープ(耳咽腔ファイバースコープ)を用いて先天性外耳道閉鎖症30耳の耳管咽頭開口部を撮影し、正常29耳のそれと比較検討した結果、外耳と耳管とは発生の原基を異にするにも拘らず、奇形耳群に形態上の変化が多く認められた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は先天性外耳道閉鎖症の改善に際し、鼓室の位置発育程度および耳管通気性の検査が重要な2点となるが、これに関して従来の耳鼻腔ファイバースコープを改良作製して耳管・鼓室造影法を開発し、手術による聴力の改善を計り効果を挙げており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。